

岐阜大学教育学部附属小中学校

“どう生きる科”の営み

岐阜大学教育学部附属小中学校

「どう生きる科」 で酪農を考える

コロナ禍で課外活動ができない状況が続く中、大井牧場（岐阜県）の協力により

令和3年7月に酪農体験を実施した岐阜大学教育学部附属小中学校。

同校独自の「どう生きる科」で、酪農を通して「いのち」「食品ロス」「働く人」を考えます。



「酪農家さんの思いを聞くことができ、電気が変わった」「食べ物をもらって大切にしようと思った」と子どもたち。



義務教育の9年間で
自分らしく
生きることを探求する

岐阜大学教育学部附属小中学校（岐阜県一穂）は、児童生徒数1000人、岐阜大学教育学部附属小中学校と中学校を前身として、令和2年4月に、小中が一体となった9年間の義務教育学校としてスタートしました。同校では、子どもたちの心や学びの発達の特徴から、1年生から9年生を三部の学年のまとまりで構成する三部制の方式をとっています。小学校・中学校の段差を緩やかにして、学校のすべての職員で子どもたちを育てていきます。

「どう生きる科」は「総合的な学習の時間」と「法科」「道徳」の授業を合わせた学びの時間で、文部科学省から「研究開発学校」の指定を受けた同校が独自に取り組む新しい学びの形です。9年間で「一人一人が自分はどう生きるか」を問い続け、自己実現に必要な資質・能力を身に付けます。

今回、大井牧場を訪れた5年生は、6月に近隣の岐阜県立岐阜高等学校とオンラインでいのちを考える授業を行いました。1年の半ばとはなると1つー



CONTENTS

⇒今こそ学校に求められる
カリキュラムマネジメントの視点

⇒“どう生きる科”が目指すもの

⇒“どう生きる科”のデザイン



ーその1ー

今こそ学校に求められる カリキュラムマネジメント の視点

カリキュラムマネジメント

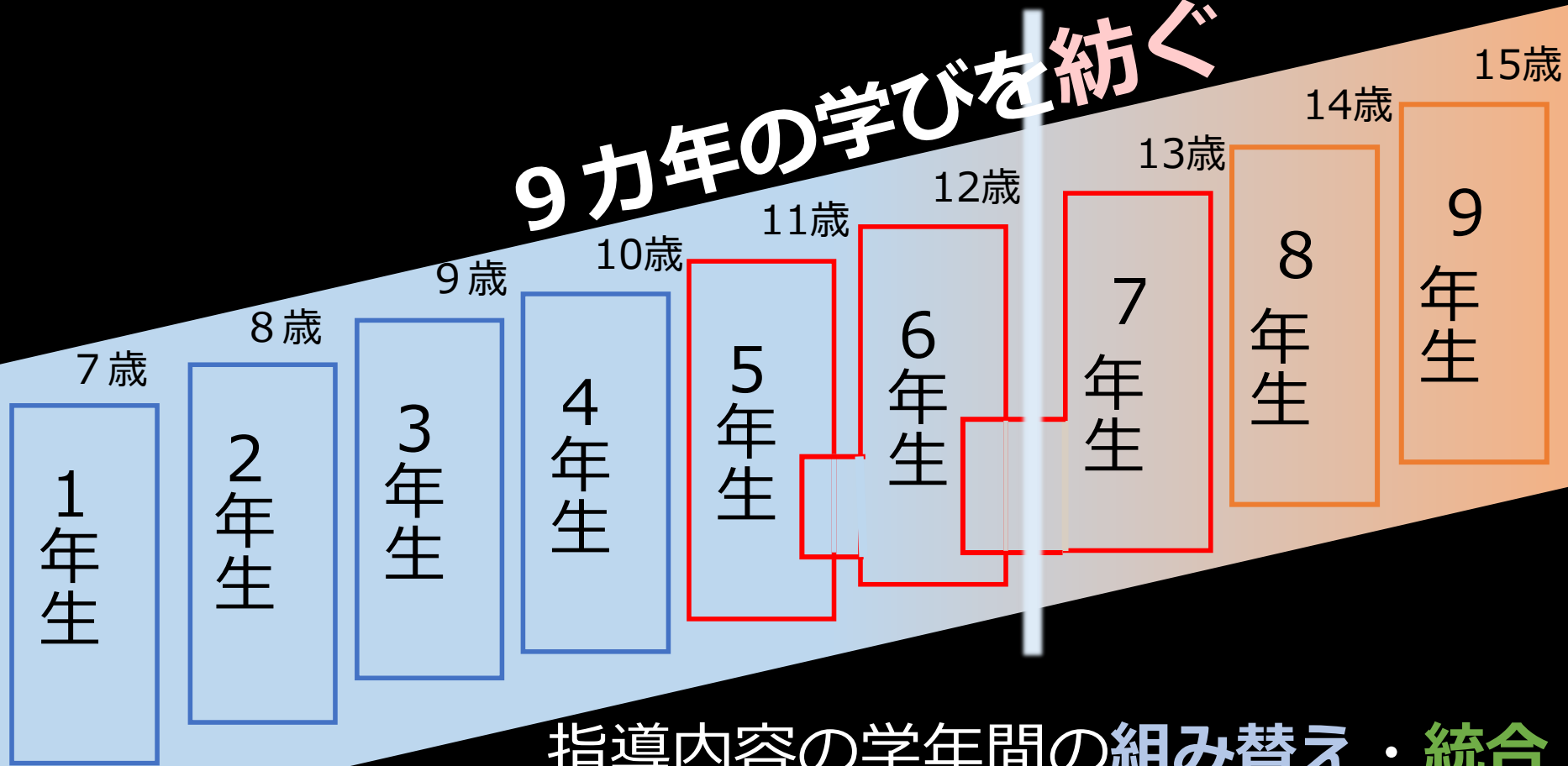
教科

縦断的な視点

カリキュラムマネジメント

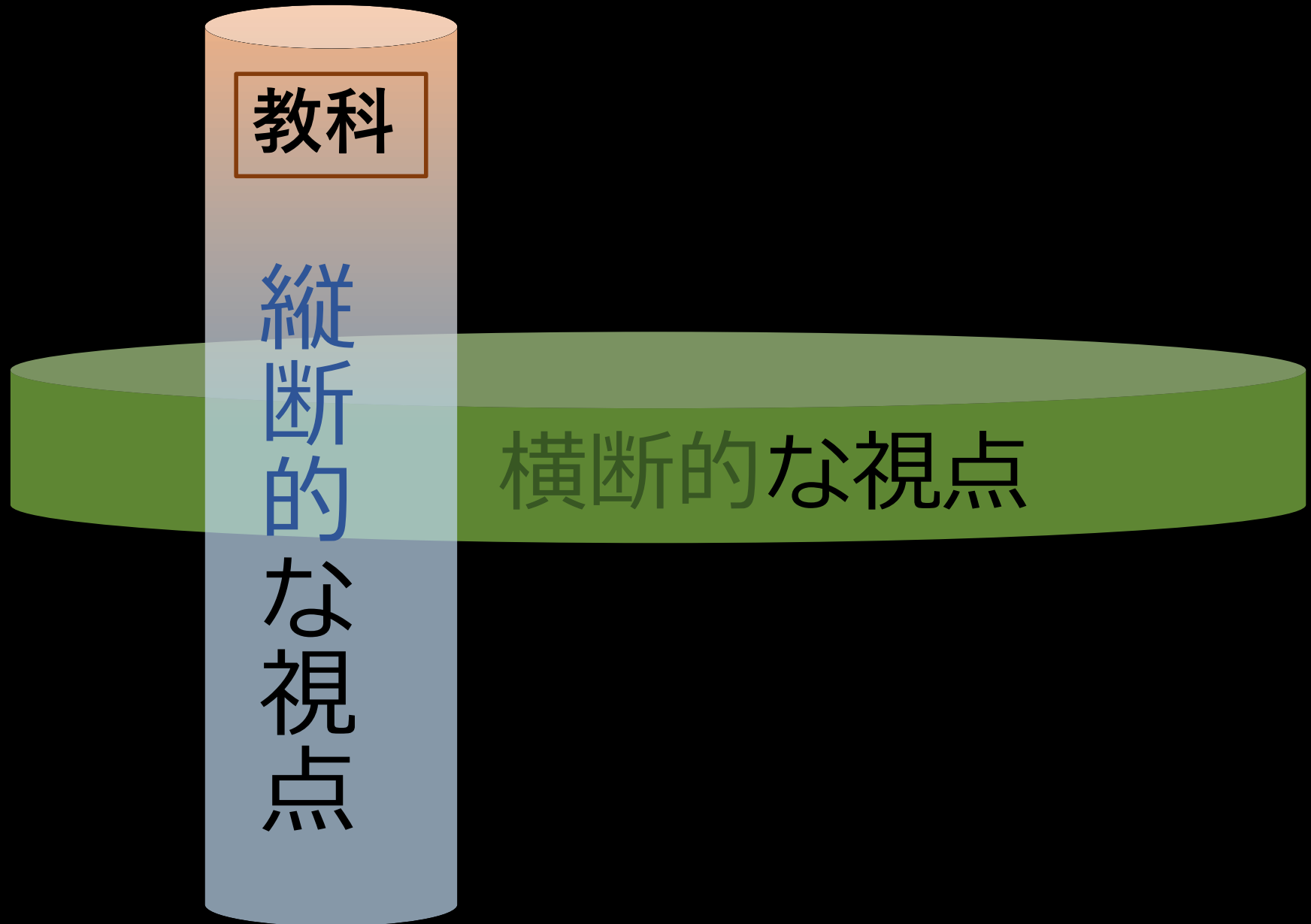
学習指導要領

9 力年の学びを紡ぐ



指導内容の学年間の組み替え・統合
など弾力的なカリキュラム作成
の工夫

カリキュラムマネジメント



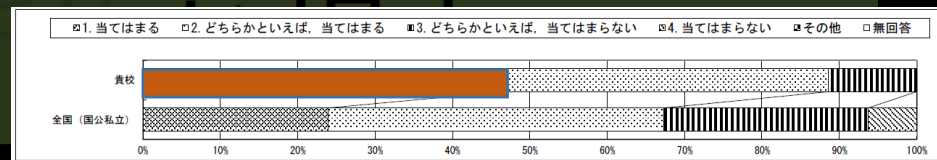
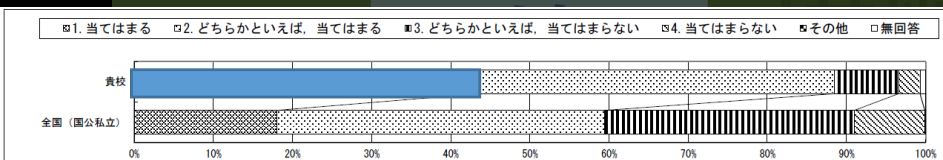
カリキュラムマネジメント

R3 全国学力学習状況調査（質問紙）

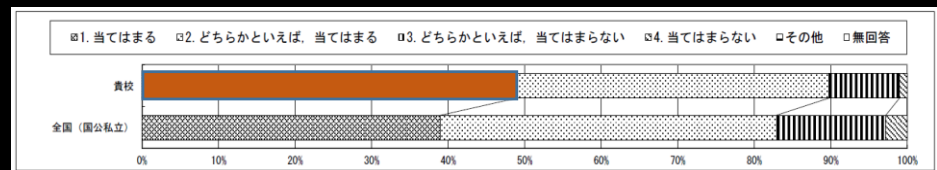
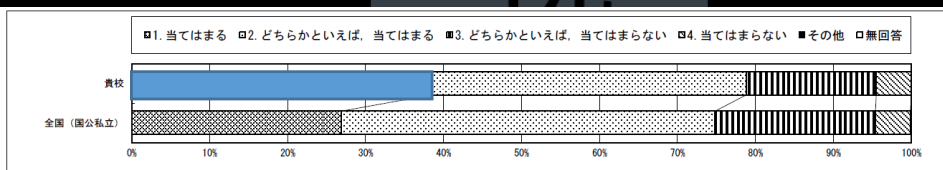
Q：授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものをつくり出したりする活動を行っていましたか（R3）

9年生（中3生）

6年生



Q：授業で学んだことを、他の学習に生かしていますか（R1）



カリキュラムマネジメント

国語科カリキュラム



社会科カリキュラム



技術科カリキュラム



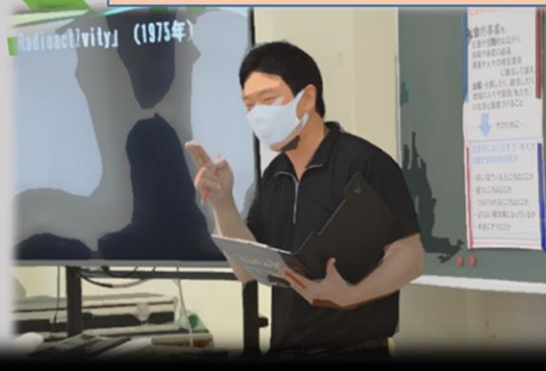
「メディアの裏側には何があるのか？」

合科（クロス）カリキュラム

英語科カリキュラム



音楽科カリキュラム



カリキュラムマネジメント

社会科カリキュラム

合科（クロス）
カリキュラム

国語科カリキュラム

令和3年度 社会科部学習指導案

実施日時：令和3年6月1日（月）～11日（金）

実施学年：9年2期、9年4期

被審者：岸 尚吾

「文学作品の裏側には何があるのか？」

～芥川龍之介が記し残した大正時代の日本～



カリキュラムマネジメント



理科カリキュラム



数学科カリキュラム

合科（クロス）カリキュラム



「速さ」と「関数」

カリキュラムマネジメント

教科
学ぶこと

縦断的な視点

乖離している

横断的な視点

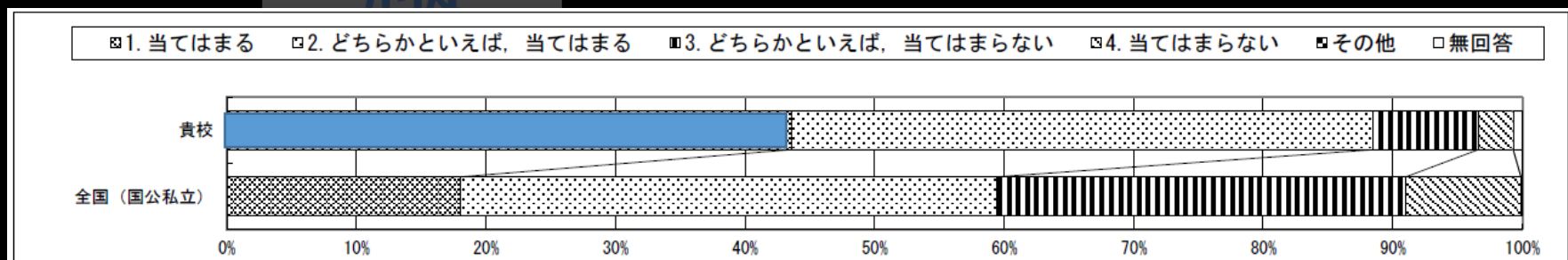
生きること

カリキュラムマネジメント

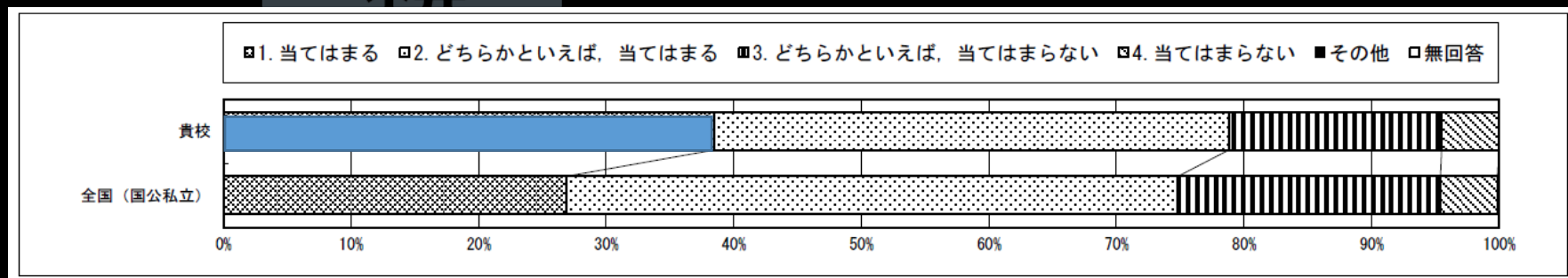
R3 全国学力学習状況調査（質問紙）

Q：国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか（R3）

9年生（中3生）



Q：数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思いますか（R3）

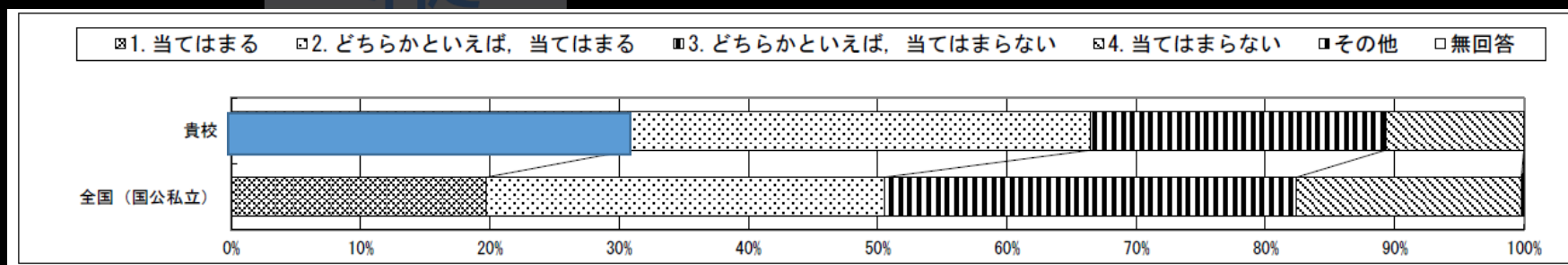


カリキュラムマネジメント

R3 全国学力学習状況調査（質問紙）

Q：授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか
考えますか（R3）

9年生（中3生）



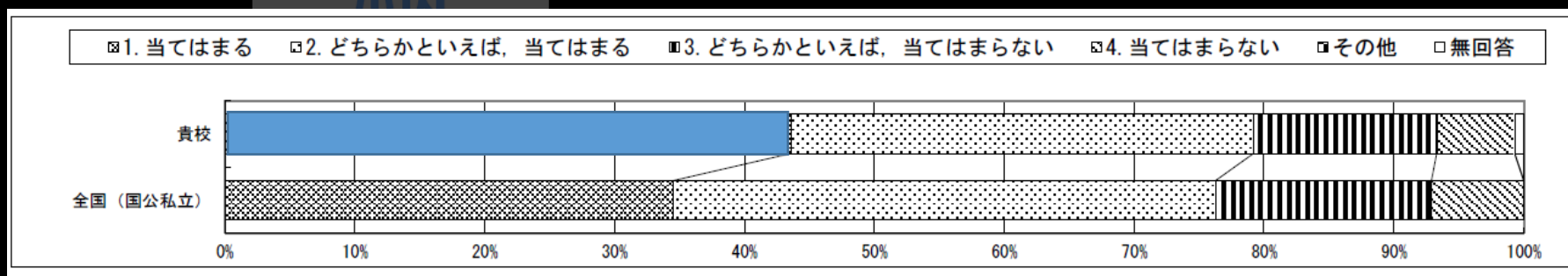
な視点

カリキュラムマネジメント

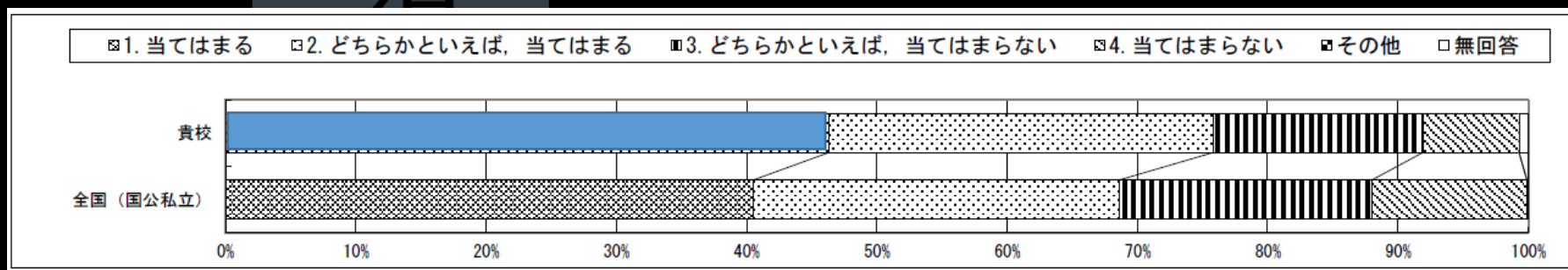
R3 全国学力学習状況調査（質問紙）

Q：自分には、よいところがあると思いますか（R3）

9年生（中3生）



Q：将来の夢や目標を持っていますか（R3）



カリキュラムマネジメント

教科

学ぶこと 融合！

生きること

縦断的な視点

横断的な視点

どう生きる科

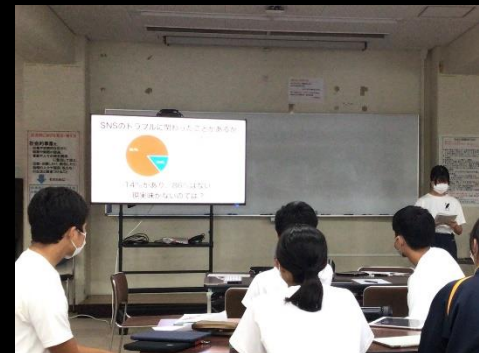
生き方を見つめる
新たな学びの領域

カリキュラムマネジメント



8年生：数学
「統計」に関する授業

8年生：どう生きる科
「統計」の学習を生かした発表



教科

R3年度

9年生：技術

「防災」に関する計測
・制御システムの開発



どう生きる科

R2年度
8年生：どう生きる科
「防災」を考える



ーその2ー

“どう生きる科”が
目指すもの

予見困難な未来

解が一つではない問題との遭遇

未来

Society5.0社会の進化

“仮想世界”と“現実世界”を融合させた超スマート社会
【AI・Iot・ロボティクス・ビッグデータ】

世界規模で解決すべき問題

【エネルギー・平和・雇用・・・】

未曾有・未知の出来事

【コロナウイルス・気候変動・災害・・・】

人生100年時代

【働き方はマルチステージ・・・】

現在

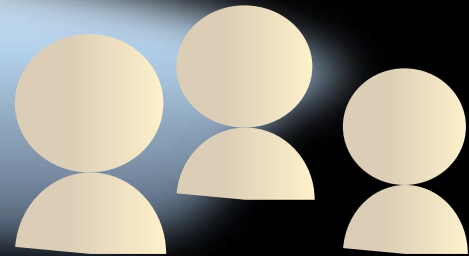
予見困難な未来

解が一つではない問題との遭遇

どう生きる科

未来

周りの人々と協調しながら、
自分なりの答えを見出し、
自分が進むべき道を切り拓く力



AIでは解決困難

現在

人間の強み

リアルな世界にある 「よりよく生きていく上での課題」

どう生きる科

最適解 や 納得解
を見出す

汎用する力

必要な資質・能力

知識・技能

主体的な問題解決力

協働的な関係構築力

貢献する人間性

4つの資質・能力と細目

知識・技能

〈知識〉

各教科の見方・考え方における学びにおいて
学習者が事実に対して概念形成し、原理一般化
したもの

〈技能〉

・知識を活用する技能 ・実用的な技能

主体的な問題解決力

どんな状況でも自分で何ができるのか
を考え、困難を乗り越えて行動すること
ができる

協働的な関係構築力

他者を受容して共感的に理解し、他
者と力を合わせて考え、行動することが
できる

貢献する人間性

自分らしさを生かし、自分や他者、社会
をよりよくするために行動しようとしてい
る

深化

活用

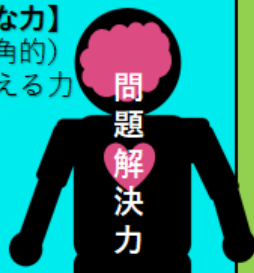
主体的な問題解決力

【問題解決のプロセスを歩んでいく力】

- ・問題発見する力
- ・計画する力
- ・意思決定する力
- ・実行する力（挑戦する力）
- ・自己を省察して、調整する力（振り返る）

【よりよい解決のために必要な力】

- ・批判的思考力（多面的・多角的）
- ・ジレンマやエラーを乗り越える力
- ・納得解や最適解に導く力



協働的な関係構築力

- ・相手のことを共感的に理解する力
- ・自分の考えを相手に理解してもらう力
- ・合意形成に向かう力
- ・リーダーシップ・マネジメント力（周りを生かす力）



貢献する人間性

- ・感性、芸術性を大事にして様々な事に興味・関心がもてる態度
- ・他者や社会に貢献しようとする態度
- ・自己有用感の高まり（自己評価）



リアルな世界にある 「よりよく生きていく上での課題」

どう生きる科



ジレンマ・エラー

よりよい生き方につながる
道徳性や価値観

リアルな世界にある 「よりよく生きていく上での課題」

どう生きる科

カリキュラム

生活科

総合的な学習
の時間

一体化

道徳

リアルな世界にある 「よりよく生きていく上での課題」

どう生きる科

学ぶ切実感

実践意欲・態度

(自分はどうかしたいか)



道徳

どう生きる科としての

資料道徳

教科書を中心とした



探究のためベースとなる 豊かに人間関係を構築できるための スキルトレーニング

どう生きる科

DST (どう生きる科スキルトレーニング)



ーその3ー

“どう生きる科”の デザイン

① 探究の仕方（段階）

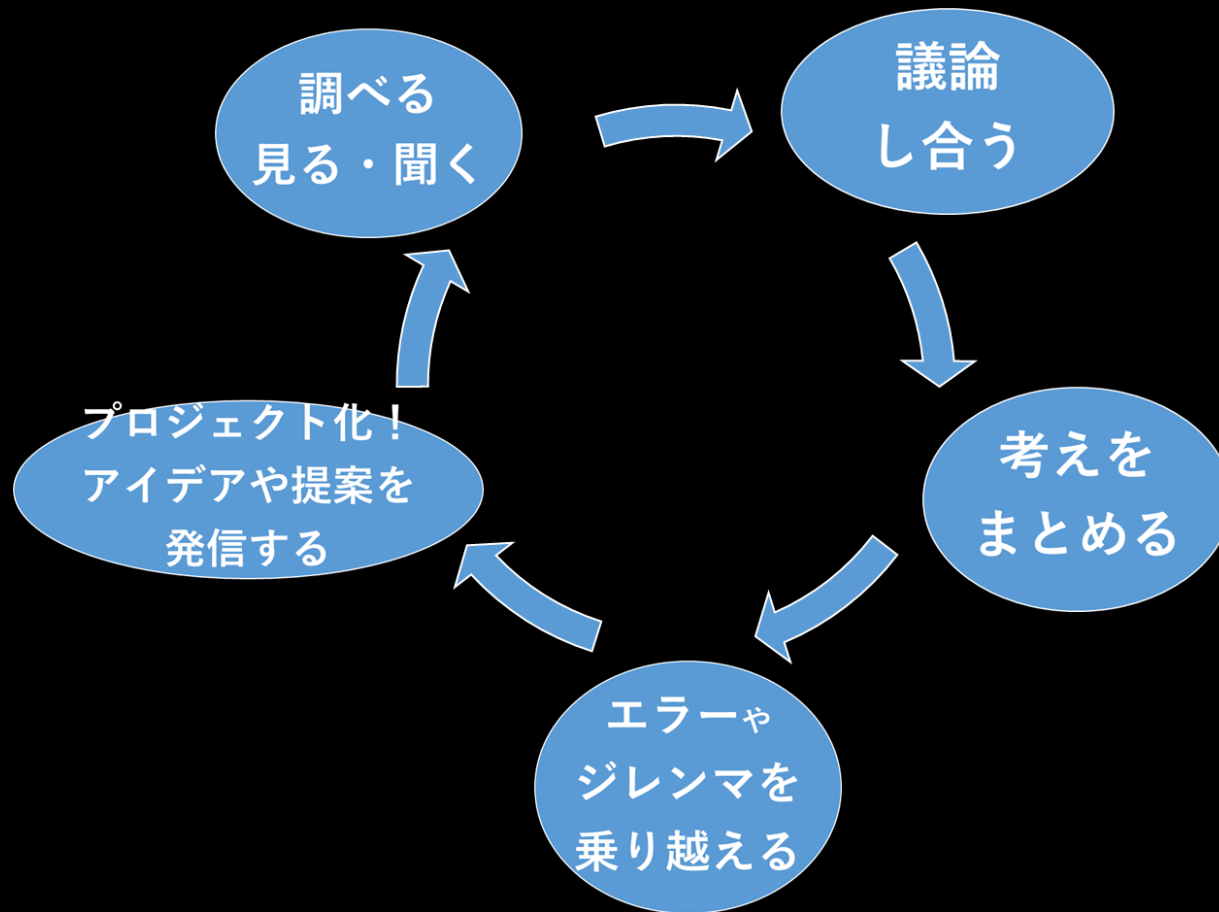
② 探究のテーマ・教材づくり

③ 探究の単元構想づくり

④ 外部人材との連携

“どう生きる科”をどうデザインするか

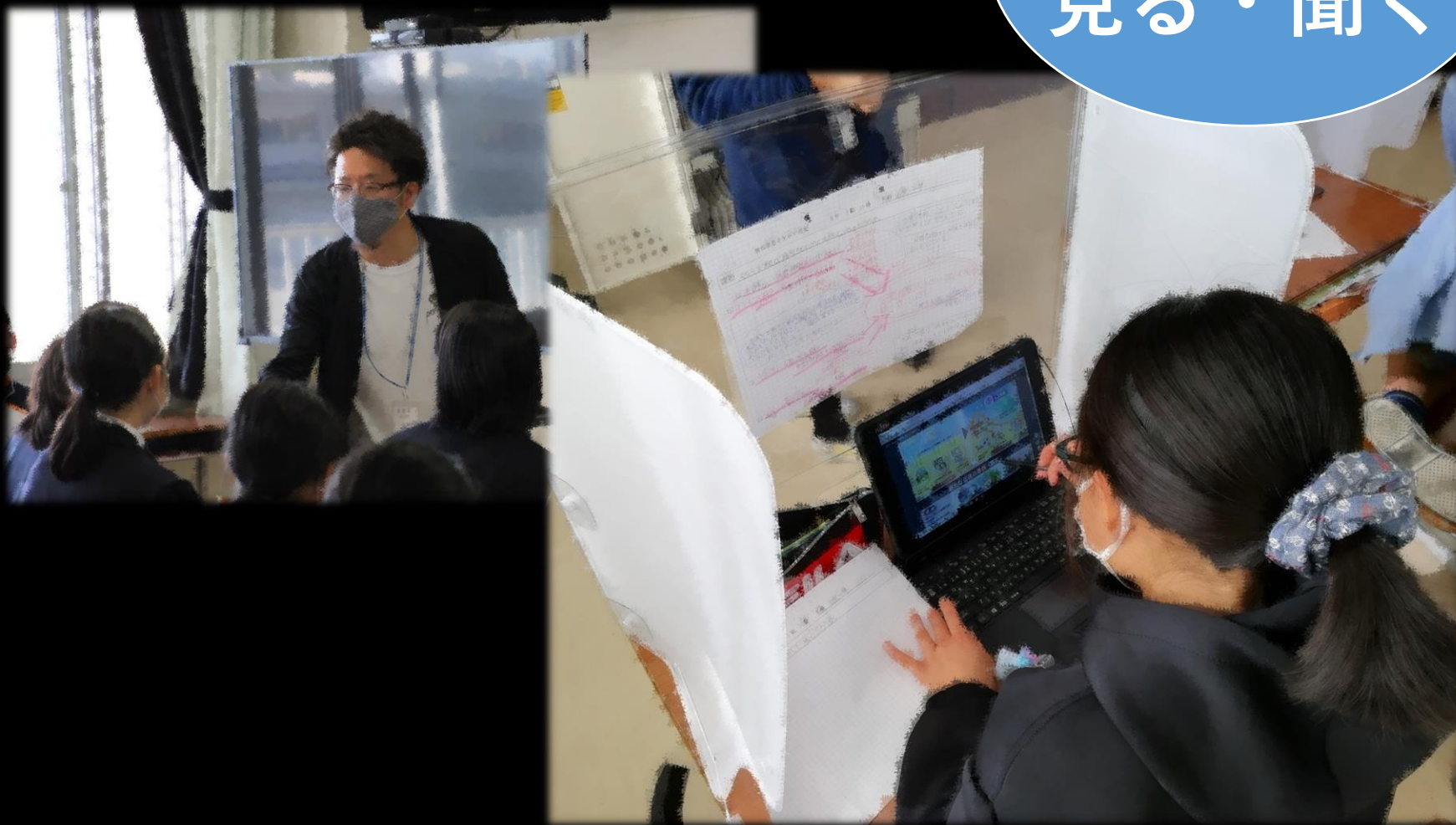
① 探究の仕方（段階）



探究のサイクル

そうだったんだ！
生き方が魅力的！

調べる
見る・聞く



探究のサイクル

なるほど、
仲間はそう考える・・・

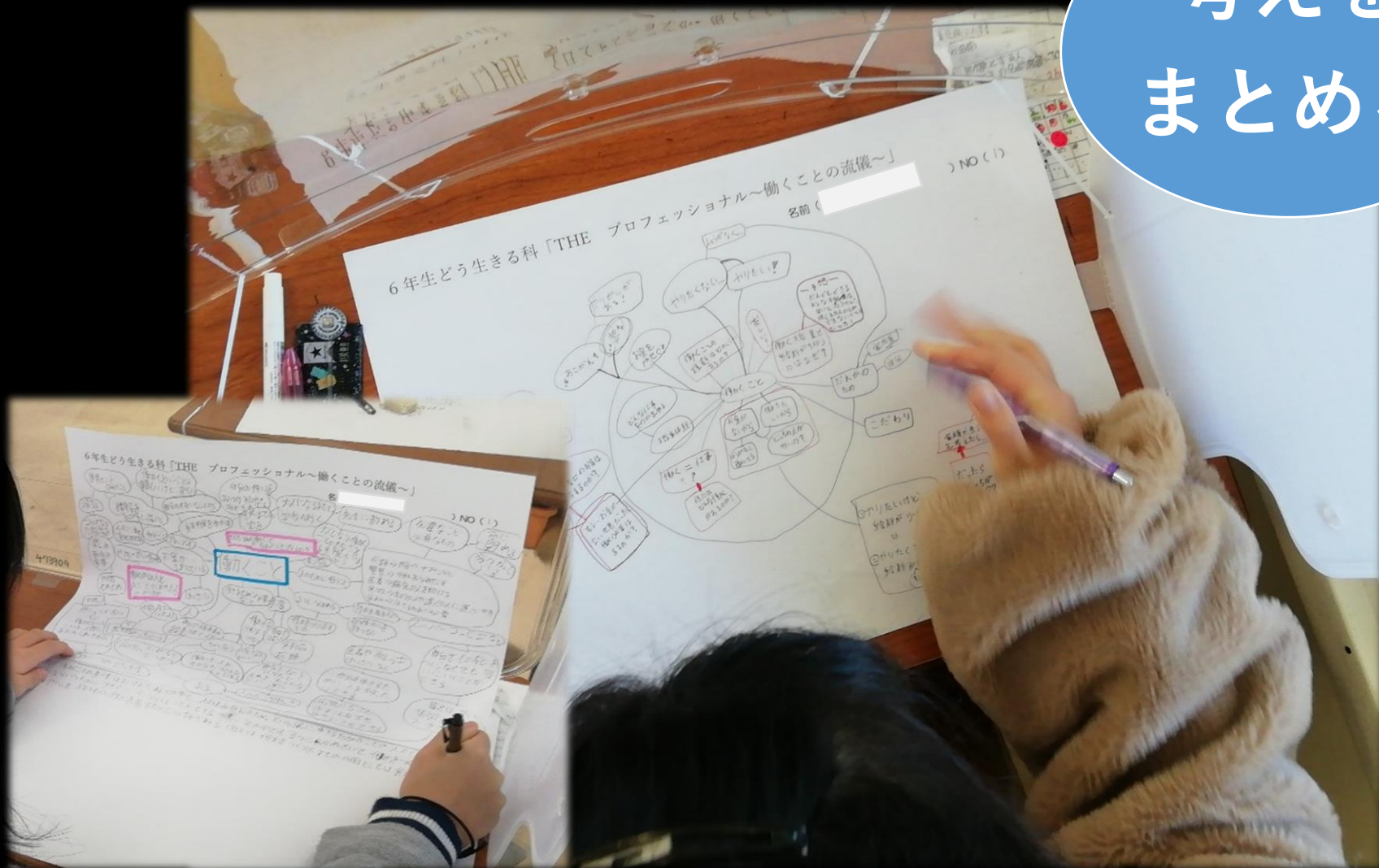
議論
し合う



探究のサイクル

私は私なりに
こう考えた

考えを
まとめる



探究のサイクル

うまくいかない
それならば・・・

エラーや
ジレンマを
乗り越える



どう生きる科

人々の幸せを考えたまちづくりをしよう。

幸せと自分の幸せ

下弘 奈月さん
自分の生活をけ
ずって、お母さんや
子供の幸せのため
に「はびやな食堂」をしている。
※ 学 活動に苦労している

Q どうして下弘さんは、
自分の生活をけずって
まで、人々の幸せのため
に取り組まれている
のだろうか。

自分の幸せ

僕だからそうする!!
家族のことを優先する

お金

自分(家族)を優先
すべきでは...

相手の幸せ 人々の幸せ

お客様の幸せ

家族とも話し合っ
ています!!

自分 < 人のために 満足
= 感謝 された...

昨日 下弘さんに電話しました.....
私のしたいことなので、まわりを巻
き込んで強制したいとは思ってなくて
.....そういう決心で「私だけが責任
をもつ」と決めました。しかし夫は、
支えてくれています。はじめは心配
していたけれど、今は同じ気持ち「ま
ちの人のために」と応援してくれてい
ます。子供たちは、「私もお店をしたい
」と言い、この前はブラザーさんを
しました。子供たちも楽しみながら応
援しています。

6-3
「はびやな
・下弘さんは
ていた。
・お母さんや
うとうれしく

お金・時間

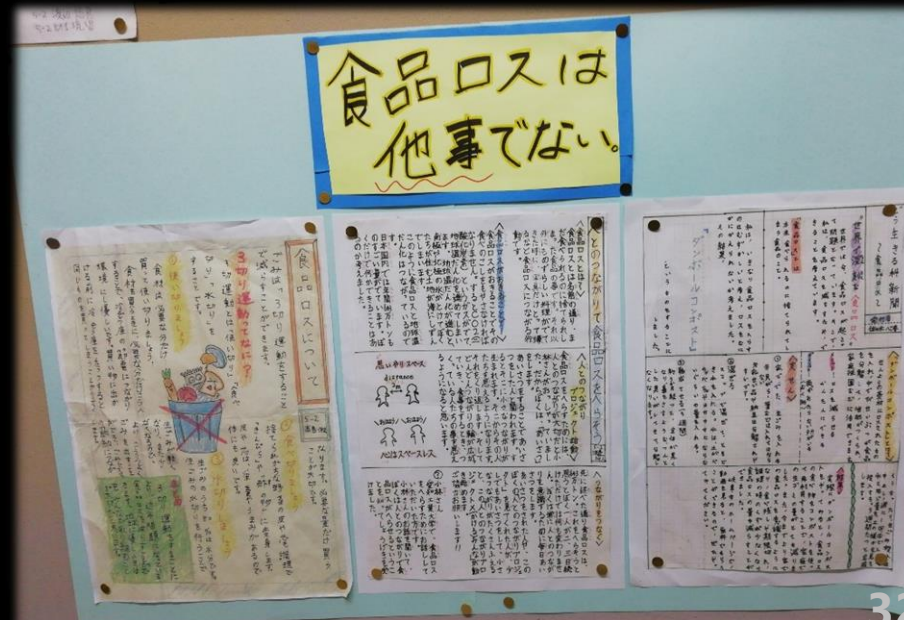
探究のサイクル

発信して
意見をもらおう

プロジェクト化！
アイデアや提案を
発信する



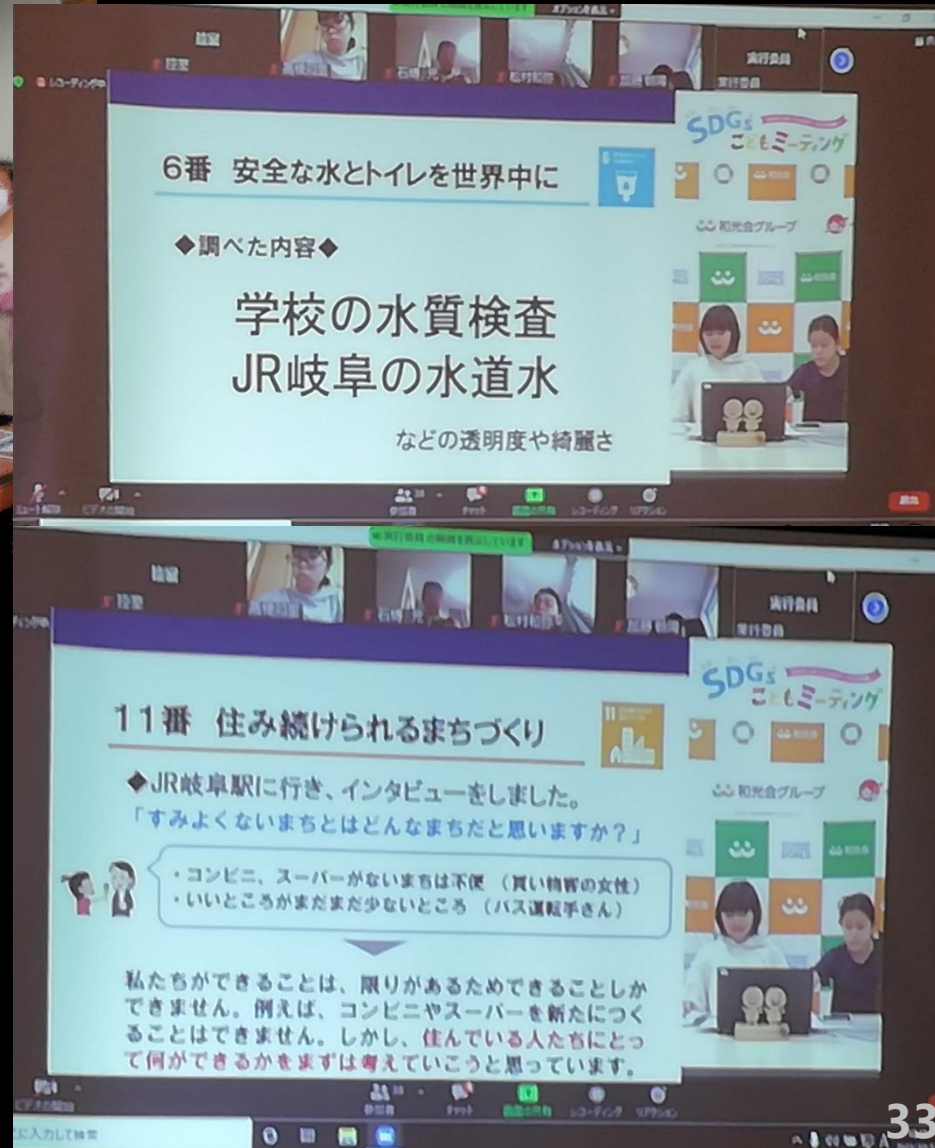
新聞・ち



探究のサイクル



↑ 富士通本社の方にオンラインで提案
(私たちが考えた省エネ対策ドライバー)



SDGs ミーティングで発表（和光会主催）→
（住みよいまちづくりとは）

探究の道筋

6/24 さいしょの自分達の
の考え

- 生きるために必要
- 人につきつしかない
- なくしたらだめ
- ふやせる
- つなげる
- なくしたらもどらない
- 大切
- 心、気持ち、生きていること、形に
表せない全て

6/24

◦ 生き
◦ 人に
◦ なく
◦ ふや
◦ つな
◦ なく
◦ 大切
◦ 心、気
表せる

% も

◦ どうして
相手を
◦ ぞずつ
そこで
◦ 命はどう

うやで生きて行く 行動する

いきたい。(自分の命 なかまの命)
かんぬきに生きる

人を助ける ◦ 後かいしない
で生きる ◦ 感せん預ぼうする

の命も大切にす
る

% わり田先生のじゅ業

- 大切ではない命はある?
↓
大切でない命はない (みても家族の命) (大切にしたい)
- 命はなぜあるの?
↓
むずかしい (分からない)
必ず人は死ぬ時間にかぎりがある
↓
今は大切にす

% こうけつ先生のじゅ業

- 命より大切なものはあるの?
↓
人によってちがう。自分でそれを見つける
- 命はどうして一つしかないの?
↓
2つあったら大切にしない
命が終わってもつづいていくものがある

探究の道筋

どう生きる科

命について

6/24 さいしょの自分達の
の書き

- 生きるために必要
- 人に つきつ かない



- 行く 行動する
- (自分の命 なかまの命)
- に 生きる
- 後かいしない
- 感せん 予ぼうする
- かに する

命

6/26 わり田先生のじゅ業

- 大切ではない命はある?
- 大切でない命はない (大切な命)
- 命はなぜあるの?
- むずかしい 分からない
- 必ず人は死ぬ 分からない 分かりがある

6/27 もろ稽矢先生のじゅ業

- どうして心か 苦しくなるか
- 相手を 理かい するため
- ぞずついた心はどうする
- そこで 立ち止まる ことが 大切
- 命はどうして一つ ⇒ わかれない

6/28 こうけつ先生のじゅ業

- 命より大切なものはあるの?
- 人によって ちがう。自分で それを見 つける
- 命はどうして一つ しかないの?
- 2つ あったら 大切に しない
- 命が たくさん ある 方がいい ものがある

探究の道筋

自分はどうやって生きて行く 行動力する

- ・大切にしていきたい。(自分の命 なかまの命)
- ・今を一生けんめいに生きる
- ・こまっている人を助ける
- ・今を幸せに生きる
- ・植物 動物の命も大切にする
- ・時間も大切にする

行動力する

自分の命 なかまの命

生きる

後かいしない

感せん予ぼうする

る

田先生のじゅ業

ない命はある?

い命はない (みても家族の命)

せあるの?

い (分からない)

時間にかぎりがある

大切に

先生のじゅ業

切なものはあるの?

↓

かう。自分でそれを見つける

一つしかないの?

↓

ら大切にしない

師はどうして? ⇒ わからない

人を強くする

人にとては×

命が終わってもつづいていくものがある

ルールは 子どもたちが敷いていく

どう生きる科

命について

6/24 さいしょの自分達の考え

- ・生きるために必要
- ・人につきつつかない
- ・なくしたらだめ
- ・ふやせる
- ・つなげる
- ・なくしたらもどらない
- ・大切
- ・心、気持ち、生きていること、形に表せない全て



7/1 もろ橋先生のじゅ業

- ・どうして心が苦しくなるか
↓
相手を理解するため
- ・そぞついた心はどうする
↓
そこで立ち止まることも大切
- ・命はどうして一つ → わからない

7/6 草、きんの命は大切?

- | | |
|----------------|-----------|
| 〈大切〉 | 〈大切ではない〉 |
| ・強力なエサ | ・野菜が育たない |
| ・草がないと植物にえいさする | ・ある人はいらない |
| ・よいきんは大切 | ・人を殺すきんは× |
| ・人を強くする | ・人にとっては× |

7/10 命より大切な物であるの?

- | | |
|----------------------|----------------|
| ある | ない |
| ・人以外の命も大切 | ↓
全て命があってこそ |
| ・立場による(大切な物がある人、ない人) | |
| ・頭 | |

7/10 こうけつ先生のじゅ業

- ・命より大切なものはあるの?
↓
人によって違う、自分でそれを見つける
- ・命はどうして一つしかないの?
↓
2つあったら大切にしない
- ・命が終わってもつづいていくものがある

どう生きる科

動物の命について

8/26 ツリーとクロは幸

〈幸せ〉

- | | |
|---------------|---------------|
| ・こは人や水を毎日もらえる | ・サン(母)と自然なかんじ |
| ・ケカした病院に | ・外に出られ |
| ・つれて帰ってもらえる | ・同じごは |
| ・部屋を光してもらえる | ・人に思いを伝 |
| ・雨から守ってもらえる | ・おそれない |

幸せと幸せではない時がある

もっと幸せな時をつくりたい

7/11 いい名先生のじゅ業

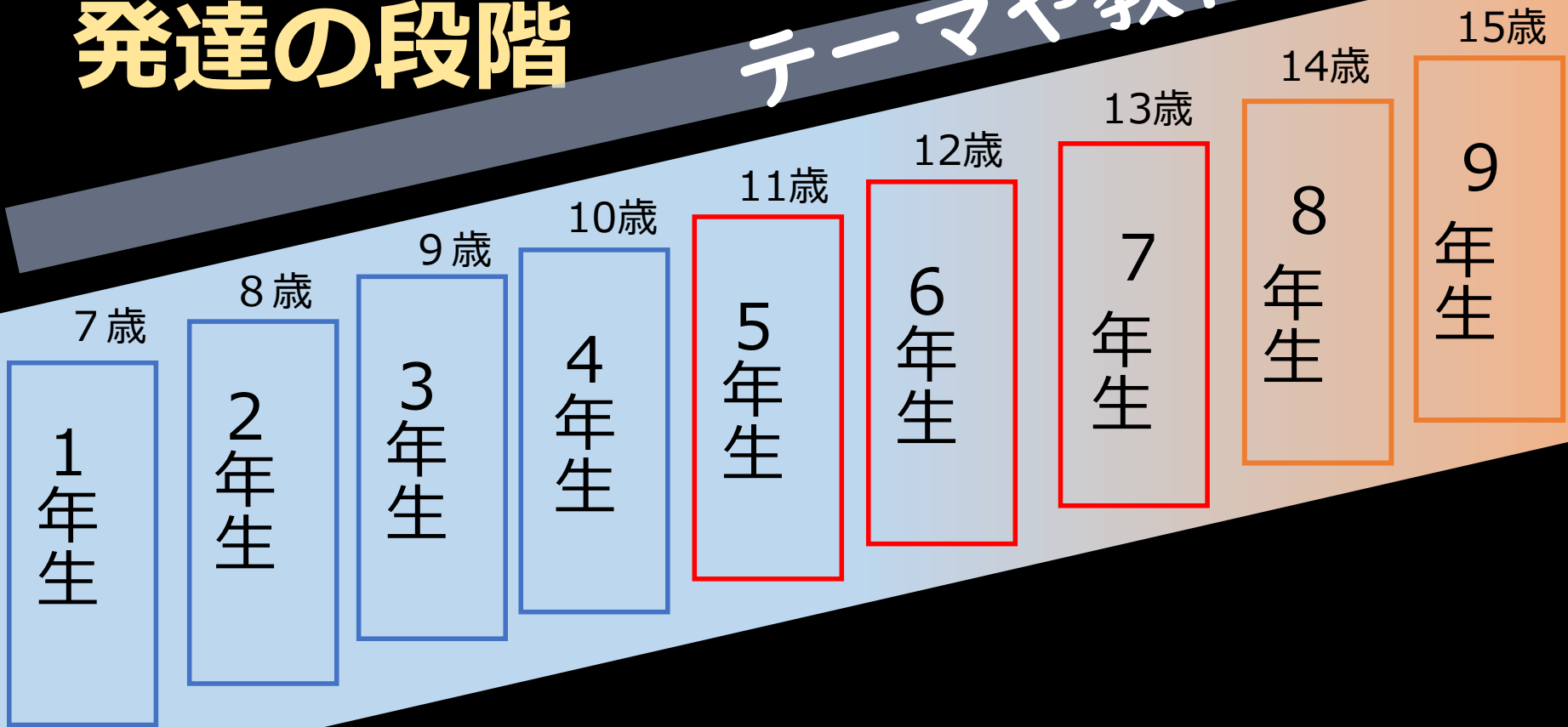
- ・帰りにのらねこの穴に会った、近づかない(かみ×時)
- ・動物は何の命に支えられて
- ・私達の命...支え合っている
- ・命は命によって支えられて

“どう生きる科”をどうデザインするか

② 探究のテーマ・教材づくり

発達段階

テーマや教材



「どう生きる科」のカリキュラムのデザイン

どう生きる科

発達の特徴

身近な人・事象から地域社会そして地球規模へ
【探究のフィールドの広がり】

具体から抽象・形から本質・一様から多様へ
【探究の質的な深まり】

7歳

1年生

2年生

3年生

4年生

5年生

6年生

7年生



取組のテーマ

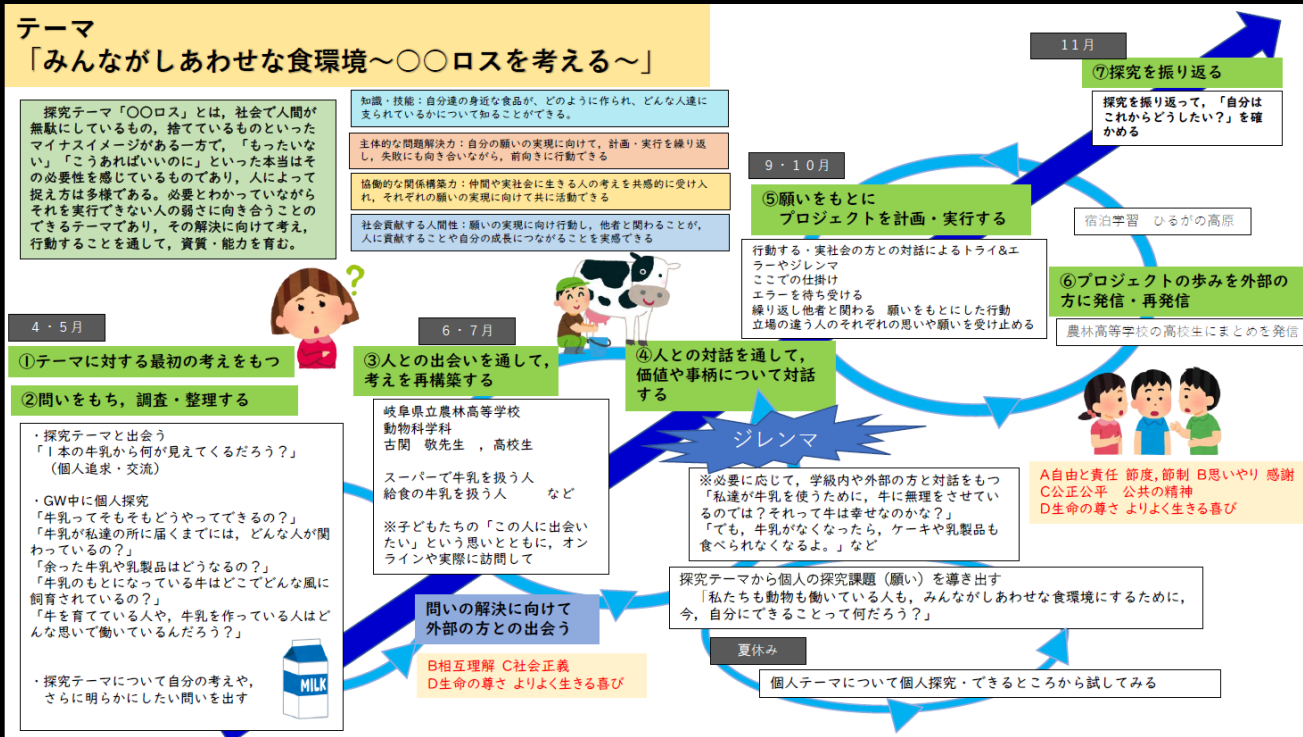
<分科会>

通常学級

部	学年	テーマ	実践概要	指導者
Ⅰ部	1年	いろいろな人と仲良くなろう ～みんな大好き！なかよし大作戦～	Ⅰ部 「家族や友達，先生，学校にある植物や動物」 身近な人「人，もの，こと」 「なぜなのか」「もっと知りたい」 疑問や関心「探究心を大切に」	研究科教授 様
	2年	みんなに美味しい野菜を 食べてもらおう ～わくわく野菜大作戦～		
	3年	全校のなかまを笑顔にしよう ～笑顔でつながる！！お花大作戦～		
	4年	命について考える ～命を大切にするととは～		
Ⅱ部	5年	みんなが幸せな食環境 ～自分にできることとは～	Ⅱ部 「自分以外の多様な存在や，社会の事象に関心」 地域や社会「現実や課題の認識」 「様々な価値観をもって生きる人々の生き方と出会う」 「様々な立場になって解決する探究」	大学院 科准教授 様
	6年	すみよいまちづくり ～そこに住む人々の幸せとは～		
	7年	〇〇な文化を私たちが守る ～未来に残すべき文化のカタチとは～		
Ⅲ部	8年	幸せに生きる×テクノロジー ～幸せに生きるとは～	Ⅲ部 「長期的な課題に目を向け，よりよい未来を創造し，行動」 「どう貢献していくか探究」 「これまでの探究の集大成として」 「将来自分はどう生きていくか」	中学校長 様
	9年	自分はどう生きるか		
特別支援学級				
Ⅰ部	3・4年	きらきらファイブになろう	Ⅲ部 「これまでの探究の集大成として」 「将来自分はどう生きていくか」	学部教授 様
Ⅱ部 Ⅲ部	8年	お客さんに喜んでもらうために		

“どう生きる科”をどうデザインするか

③ 探究の単元構想づくり



“教材性”

単元の目標を具現するに効果的な(適した)「学びの素材」を、子どもの発達段階や切実感とマッチングさせながら、選定し組み合わせていくこと・・・どう生きる科の学びを成立させるために欠かせない要素。

生命の尊さ

<分科会> 通常学級				生命の尊さ	
部	学年	テーマ			指導者
I 部	1 年	いろいろな人と仲良くなろう ～みんな大好き！なかよし大作戦～	「学校にはなにがあるの？」という問いかけから、子供たちは、先生、お兄さん、お姉さんなど、いろいろな人と仲良くなりたいという気持ちで、自分たちが生活している学校をどうしたらよいのかを探究していく。	「学校にはなにがあるの？」という問いかけから、子供たちは、先生、お兄さん、お姉さんなど、いろいろな人と仲良くなりたいという気持ちで、自分たちが生活している学校をどうしたらよいのかを探究していく。	
	2 年	みんなに美味しい野菜を 食べてもらおう ～わくわく野菜大作戦～	「美味しい野菜を育てている。その中で、物は何かなど、多岐にわたる問いが生まれ、子供たちは、全校の仲間と協力して、笑顔にしたいという気持ちで、自分たちが生活している学校をどうしたらよいのかを探究していく。	「自分の生活の中で、物は何かなど、多岐にわたる問いが生まれ、子供たちは、全校の仲間と協力して、笑顔にしたいという気持ちで、自分たちが生活している学校をどうしたらよいのかを探究していく。	大阪教育大学 連合教職実践研究科教授 田村知子 様
	3 年	全校のなかまを笑顔にしよう ～笑顔でつながる！！お花大作戦～	子供たちは、全校の仲間と協力して、笑顔にしたいという気持ちで、自分たちが生活している学校をどうしたらよいのかを探究していく。	子供たちは、全校の仲間と協力して、笑顔にしたいという気持ちで、自分たちが生活している学校をどうしたらよいのかを探究していく。	
	4 年	命について考える ～命を大切にすると～	飼育活動を通して、命の大切さについて考える子供たちと向き合う医療従事者や、衛生検査所など、命と共に自分はどう生きるかを学び続ける。	飼育活動を通して、命の大切さについて考える子供たちと向き合う医療従事者や、衛生検査所など、命と共に自分はどう生きるかを学び続ける。	
II 部	5 年	みんなが等しい食環境 ～自分にできることは～	コロナ禍での給食用牛乳の大量ロス。1本の牛乳の向こうに見える「命」「人」「資源」の繋がりに、子供の中に「みんなが等しい食環境とは何か？」という問いが生まれた。答えを求めて酪農家を訪問、現場を見て語り合う。理想と現実の違いから生まれるジレンマと向き合い、食環境を支える一員として自分はどう生きるかを探究する。	コロナ禍での給食用牛乳の大量ロス。1本の牛乳の向こうに見える「命」「人」「資源」の繋がりに、子供の中に「みんなが等しい食環境とは何か？」という問いが生まれた。答えを求めて酪農家を訪問、現場を見て語り合う。理想と現実の違いから生まれるジレンマと向き合い、食環境を支える一員として自分はどう生きるかを探究する。	
	6 年	すみよいまちづくり ～そこに住む人々の幸せとは～	「すみよいまちとはどんなまちなのか？」「そのすみよさを生み出すものとは何か？」その問いの答えを求め、まちを歩いて調査をしている。市役所の人や、まちで働く人、まちに住んでいる人に出会って話をすることで、自分たちが描く理想と現実の違いから生まれるジレンマに葛藤しながらも、まちをつくる市民の一人として自分はどう生きるかを探究していく。	「すみよいまちとはどんなまちなのか？」「そのすみよさを生み出すものとは何か？」その問いの答えを求め、まちを歩いて調査をしている。市役所の人や、まちで働く人、まちに住んでいる人に出会って話をすることで、自分たちが描く理想と現実の違いから生まれるジレンマに葛藤しながらも、まちをつくる市民の一人として自分はどう生きるかを探究していく。	上越教育大学大学院 学校教育研究科准教授 河野麻沙美 様
	7 年	〇〇な文化を私たちが守る ～未来に残すべき文化のカタチとは～	「文化とは何か？」という問いから始まり、様々な文化に触れる中で感じるその文化の美しさや尊さ、誇り…。しかし、その文化が今、消えかけたり、大きく変わろうとしたりしている事実と直面する中で「文化を守るためには？」と自分事として考える子供たち。文化に関わる人との出会いや仲間との対話を通して、文化を未来につなげるための創造的な探究が始まる。	「文化とは何か？」という問いから始まり、様々な文化に触れる中で感じるその文化の美しさや尊さ、誇り…。しかし、その文化が今、消えかけたり、大きく変わろうとしたりしている事実と直面する中で「文化を守るためには？」と自分事として考える子供たち。文化に関わる人との出会いや仲間との対話を通して、文化を未来につなげるための創造的な探究が始まる。	
III 部	8 年	幸せに生きる×テクノロジー ～幸せに生きるとは～	テーマから実生活を見つめ、テクノロジーの存在に気付く。工業高校の生徒や町工場の方々との対話を通して、様々なテクノロジーに触れる。実生活と対話から生まれるジレンマと向き合う中で、「幸せとテクノロジー」の視点から探究していく。	テーマから実生活を見つめ、テクノロジーの存在に気付く。工業高校の生徒や町工場の方々との対話を通して、様々なテクノロジーに触れる。実生活と対話から生まれるジレンマと向き合う中で、「幸せとテクノロジー」の視点から探究していく。	郡上市立郡南中学校長 三島晃陽 様
	9 年	自分はどう生きるか	「生きる」とはどういうことか。このような問いをもとに、様々な人の生き方に触れたり、相反する考えをもつ他者との対話を積み重ねたりする。その中で、生きることに対する価値観を多面的・多角的に構築しながら、予測困難な時代を自分は「どう生きる」のか、探究し続ける。	「生きる」とはどういうことか。このような問いをもとに、様々な人の生き方に触れたり、相反する考えをもつ他者との対話を積み重ねたりする。その中で、生きることに対する価値観を多面的・多角的に構築しながら、予測困難な時代を自分は「どう生きる」のか、探究し続ける。	
特別支援学級					
I 部	3・4 年	きらきらファイブになろう	「きらきらファイブ」の絵本には、主人公5人が力を合わせてゲームに挑み、記録を伸ばしていく大会の様子が描かれている。自分たちが、主人公「きらきらファイブ」になりきって絵本のストーリーを進める中で、自分の役割を最後までやり遂げることや仲間と協力することの大切さを学んでいく。	「きらきらファイブ」の絵本には、主人公5人が力を合わせてゲームに挑み、記録を伸ばしていく大会の様子が描かれている。自分たちが、主人公「きらきらファイブ」になりきって絵本のストーリーを進める中で、自分の役割を最後までやり遂げることや仲間と協力することの大切さを学んでいく。	岐阜大学教育学部教授 池谷尚剛 様
II 部 III 部	8 年	お客さんに喜んでもらうために	職業調べを通して、「お客さんに喜んでもらえるようなカフェを開きたい」と願いをもちた子供たち。社会に出て働く自分の姿を描き、仲間と共にカフェを開く準備をし、実際にお店を開く。その中で、仕事のやりがいを見つけ、働くことの意義について考えていく。	職業調べを通して、「お客さんに喜んでもらえるようなカフェを開きたい」と願いをもちた子供たち。社会に出て働く自分の姿を描き、仲間と共にカフェを開く準備をし、実際にお店を開く。その中で、仕事のやりがいを見つけ、働くことの意義について考えていく。	

実践の例（5年生）

＜分科会＞		通常学級		
部	学年	テーマ	実践概要	指導者
Ⅰ部	1年	いろいろな人と仲良くなろう ～みんな大好き！なかよし大作戦～	「学校にはなにがあるの？」という問いから始まった学校探検。その答えを見つけたくて、探検に出かけた子供たちは、先生、お兄さん、お姉さんなどと関わる。そして、気付けば「あの人もっと仲良くなりたい」と願うようになった。子供たちは、自分だけの「なかよし大作戦」を考え、様々な「人」と仲良くなるためにはどうしたらよいのかを探究していく。	大阪教育大学 連合教職実践研究科教授 田村知子 様
	2年	みんなに美味しい野菜を 食べてもらおう ～わくわく野菜大作戦～	「美味しい野菜を育てたい」「自分の育てた野菜を家族に食べてほしい」といった強い願いをもち、野菜を育てている。その中で、「どれくらいの種類の野菜があるのか」「育つ時期は違うのか」「育てるために必要な物は何か」など、多くの疑問が生まれた。その解決のために仲間とともに探究していく。	
	3年	全校のなかまを笑顔にしよう ～笑顔でつながる！！お花大作戦～	子供たちは、全校のなかまを笑顔にしようと、種や苗から花の栽培をしている。しかし、枯れたり発芽しなかったりと、なかなかうまくいかずジレンマを感じることも多い。そんな状況下で、どうすれば花を咲かせ続けることができるのかを仲間とともに考え、自分がどう行動すれば、全校のなかまの笑顔につながるかを探究していく。	
	4年	命について考える ～命を大切にすると～	飼育活動を通して命と共に生きる子供たちから生まれた問い「命とは？」。その問いの答えを求めて、常に命と向き合う医療従事者や食肉衛生検査所の方々や語り合う。実生活と対話から生まれるジレンマと向き合い、命と共に自分はどう生きるか学び続ける。	
	5年	みんなが幸せな食環境 ～自分にできることは～	コロナ禍での給食用牛乳の大量ロス。1本の牛乳の向こうに見える「命」「人」「資源」の繋がりに、子供の中に「みんなが幸せな食環境とは何か？」という問いが生まれた。答えを求めて酪農家を訪問、現場を見て語り合う。理想と現実の違いから生まれるジレンマと向き合い、食環境を支える一員として自分はどう生きるかを探究する。	
Ⅱ部	6年	すみよいまちづくり ～そこに住む人々の幸せとは～	「すみよいまちとはどんなまちなのか？」「そのすみよさを生み出すものは何か？、その問いの答えを求め、まちを歩いて調査をしている。市役所の人や、自分たちが描く理想と現実の違いから生まれる自分はどう生きるかを探究していく。	大阪教育大学大学院 教育研究科准教授 麻沙美 様
	7年	〇〇な文化を私たちが守る ～未来に残すべき文化のカタチとは～	「文化とは何か？」という問いから始まり、様々な文化に触れる中で感じるその文化の美しさや良さ、誇り...しかし、その文化が今、消えかけたり、大きめには？」と自分事として考える子供たち。につなげるための創造的な探究が始まる。	
Ⅲ部	8年	幸せに生きる×テクノロジー ～幸せに生きるとは～	テーマから実生活を見つめ、テクノロジーの様々なテクノロジーに触れる。実生活と対話の視点から探究していく。	立郡南中学校長 晃陽 様
	9年	自分はどう生きるか	「生きる」とはどういうことか。このようなつ他者との対話を積み重ねたりする。その中予測困難な時代を自分は「どう生きる」のか。	
特別支援学級				
Ⅰ部	3・4年	きらきらファイブになろう	「きらきらファイブ」の絵本には、主人公5子が描かれている。自分たちが、主人公「き自分の役割を最後までやり遂げることや仲間	
Ⅱ部 Ⅲ部	8年	お客さんに喜んでもらうために	職業調べを通して、「お客さんに喜んでもらうに出て働く自分の姿を描き、仲間と共にカフがいを見つけ、働くことの意義について考えていく。	学教育学部教授 尚剛 様



SDGs 食 品 ロ ス

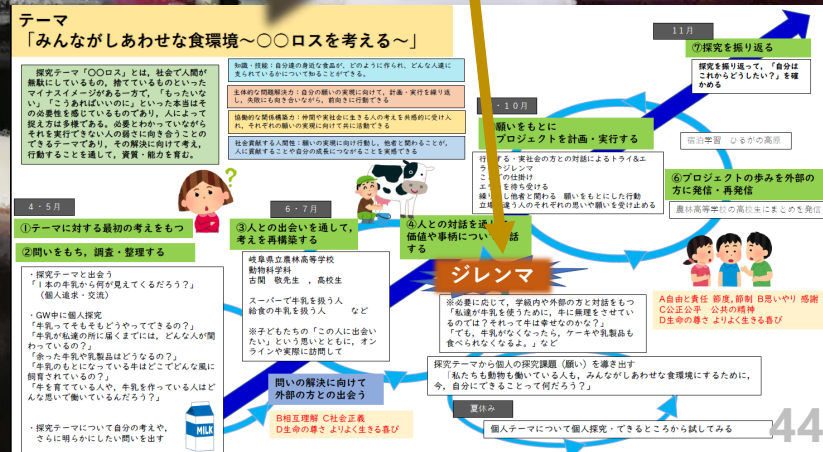
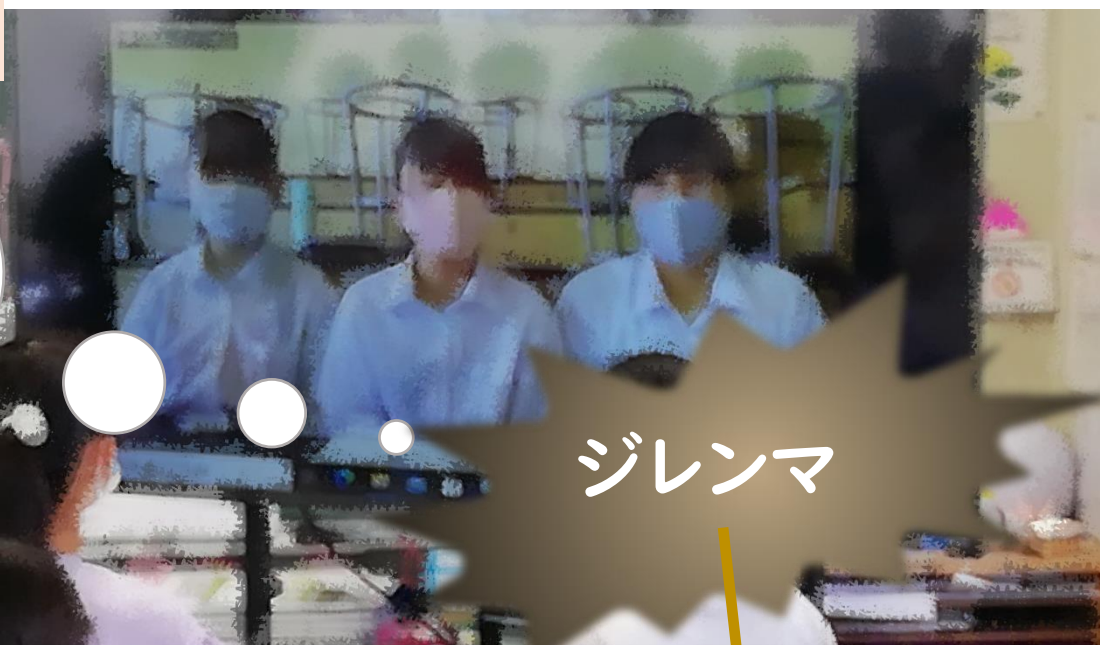
5年生 テーマ 「みんなが幸せな食環境 ～自分にできることとは～」 岐阜農林高校動物科学科の生徒さんとの遠隔コラボ授業 (6月)

牛＝経済動物であることの理解

高校生の皆さんも、一生懸命
育てた牛を手ばなすのはつら
いんだ。

だけど、人々くらしを支えて
いくためには必要で、つらさを
乗り越え働いていることが
分かった。

私たちにできることは
感謝して食べること。



実践の例（6年生）

＜分科会＞

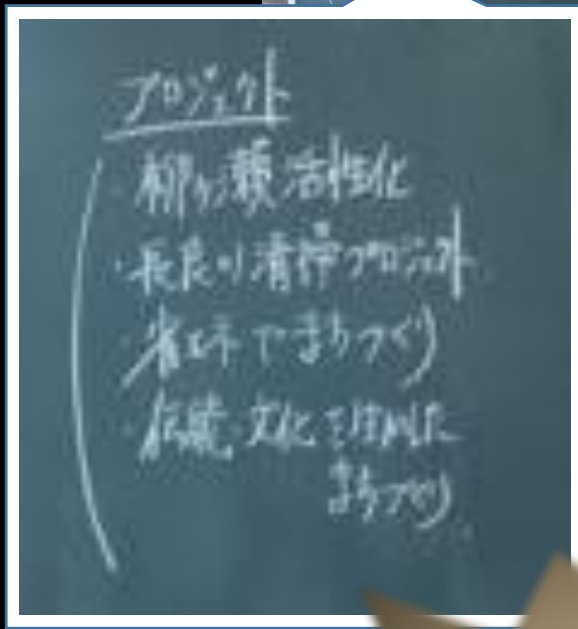
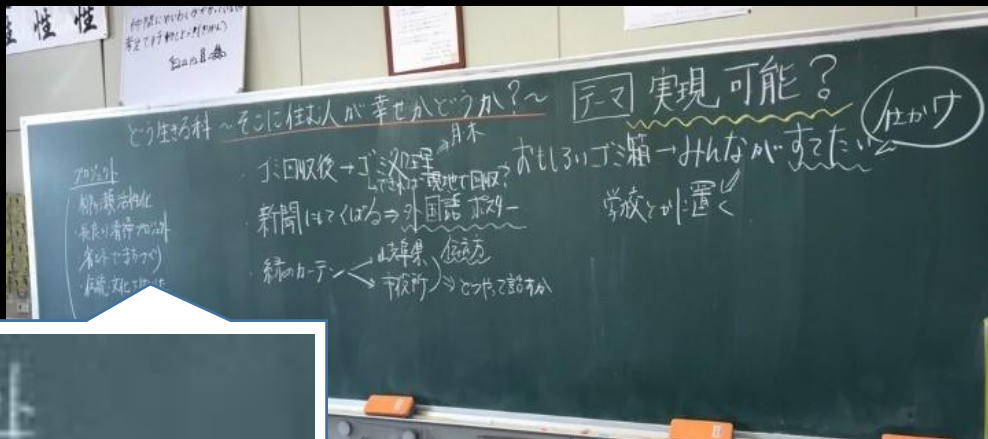
通常学級

部	学年	テーマ	実践概要	指導者
Ⅰ部	1年	いろいろな人と仲良くなろう ～みんな大好き！なかよし大作戦～	「学校にはなにがあるの？」という問いから始まった学校探検。その答えを見つけたくて、探検に出かけた子供たちは、先生、お兄さん、お姉さんなどと関わる。そして、気付けば「あの人もっと仲良くなりたい」と願うようになった。子供たちは、自分だけの「なかよし大作戦」を考え、様々な「人」と仲良くなるためにはどうしたらよいのかを探究していく。	大阪教育大学 連合教職実践研究科教授 田中 様
	2年	みんなに美味しい野菜を 食べてもらおう ～わくわく野菜大作戦～	「美味しい野菜を育てたい」「自分の育てた野菜を家族に食べてほしい」といった強い願いをもち、野菜を育てている。その中で、「どれくらいの種類の野菜があるのか」「育つ時期は違うのか」「育てるために必要な物は何か」など、多くの疑問が生まれた。その解決のために仲間とともに探究していく。	
	3年	全校のなかまを笑顔にしよう ～笑顔でつながる！！お花大作戦～	子供たちは、全校のなかまを笑顔にしようと、種や苗から花の栽培をしている。しかし、 令和2年7月17日（金） 柱れり登りな かったりと、なかなかうまくいかずジレンマを感じることも多い。そんな状況下で、ど けることができるのかを仲間とともに考え、自分がどう行動すれば、全校のなかまを していく。	
	4年	命について考える ～命を大切にするととは～	飼育活動を通して命と共に生きる子供たちから生まれた問い「命とは？」。その と向き合う医療従事者や食肉衛生検査所の方々や語り合う。実生活と対話から生 命と共に自分はどう生きるか学び続ける。	
	5年	みんなが幸せな食環境 ～自分にできることは～	コロナ禍での給食用牛乳の大量ロス。1本の牛乳の向こうに見える「命」「人」 の中に「みんなが幸せな食環境とは何か？」という問いが生まれた。答えを求め 語り合う。理想と現実の違いから生まれるジレンマと向き合い、食環境を支える かを探究する。	
Ⅱ部	6年	すみよいまちづくり ～そこに住む人々の幸せとは～	「すみよいまちとはどんなまちなのか？」「そのすみよさを生み出すものとは何か？」 まちを歩いて調査をしている。市役所の人や、まちで働く人、まちに住んでいる人に出会って話をする中で、 自分たちが描く理想と現実の違いから生まれるジレンマに葛藤しながらも、まちをつくる市民の一人として自 分はどう生きるかを探究していく。	大阪教育大学 学校教育研究科准教授 河野麻沙美 様
	7年	〇〇な文化を私たちが守る ～未来に残すべき文化のカタチとは～	「文化とは何か？」という問いから始まり、様々な文化に触れる中で感じるその文化の美しさや尊さ、誇り…。 しかし、その文化が今、消えかけたり、大きく変わろうとしたりしている事実と直面する中で「文化を守るた めには？」と自分事として考える子供たち。文化に関わる人との出会いや仲間との対話を通して、文化を未来 につなげるための創造的な探究が始まる。	
Ⅲ部	8年	幸せに生きる×テクノロジー ～幸せに生きるとは～	テーマから実生活を見つめ、テクノロジーの存在に気付く。工業高校の生徒や町工場の方々との対話を通して、 様々なテクノロジーに触れる。実生活と対話から生まれるジレンマと向き合う中で、「幸せとテクノロジー」 の視点から探究していく。	郡上市立郡南中学校長
	9年	自分はどう生きるか	「生きる」とはどういうことか。このような問いをもとに、様々な人の生き方に触れたり、相反する考えをも つ他者との対話を積み重ねたりする。その中で、生きることに対する価値観を多面的・多角的に構築しながら、 予測困難な時代を自分は「どう生きる」のか、探究し続ける。	三島晃陽 様

特別支援学級

Ⅰ部	3・4年	きらきらファイブになろう	「きらきらファイブ」の絵本には、主人公5人が力を合わせてゲームに挑み、記録を伸ばしていく大会の様 子が描かれている。自分たちが、主人公「きらきらファイブ」になりきって絵本のストーリーを進める中で、 自分の役割を最後までやり遂げることや仲間と協力することの大切さを学んでいく。	岐阜大学教育学部教授
Ⅱ部 Ⅲ部	8年	お客さんに喜んでもらうために	職業調べを通して、「お客さんに喜んでもらえるようなカフェを開きたい」と願いをもちた子供たち。社会 に出て働く自分の姿を描き、仲間と共にカフェを開く準備をし、実際にお店を開く。その中で、仕事のやり がいを見つけ、働くことの意義について考えていく。	池谷尚剛 様

6年生 テーマ「すみよいまちづくり」 住む人が幸せなまちにするために (12月)



エラー
ジレンマ

6年生テーマ：住みよいまちづくり 三橋直哉

ゴール (今のところ)：住んでいる人がしあわせだと感じるまちづくりとは？

4つの資質・能力を具現化した姿

知識・技能
よりよい社会は企業や行政、住民など多様な人々の活動によって構築されていることを実感することができる。
よりよい社会を創造していくために、自分ができることは何かを考え、プレゼンや制作活動などを通して、自己の学びを社会に発信していくことができる。
主体的な問題解決力
自ら問いや願いをもち、その解決や実現に向けて、困難と前向きに向き合い、トライ＆エラーを繰り返しながら行動することができる。
※困難を前向きに捉える姿
※困難を認識した上で向き合う姿
協働的な関係構築力
他者(仲間や実社会に生きる人)の考えを批判・検討も含めて自分なりに考えた上で共感的に受け入れ、願いの実現に向けて行動することができる。
※考えを批判・検討も含めて自分なりに考えている姿(対話)
社会に貢献する人間性
実社会に生きる人の生き方を自分なりに考えた上、願いの実現に向けて行動したりすることを通して、他者と関わるだけでなく、人に貢献することのよさや自分の成長を実感できる。
※実社会に生きる人の生き方を考える姿
※他者との関わりから人への貢献に気付いていく姿

3月：探究の発信(2回目)
他学年へ伝える、メディアコスモスで展示会、岐阜大学の学生(地域科学部?)へプレゼン、親へのプレゼン

・「理想のまちづくり」と「実際のまちづくり」のギャップ
・今のプロジェクトは本当に住んでいる人のしあわせにつながっているのか?

1・2月：住んでいる人にとって「本当にしあわせな」とは?
～「理想のまちづくり」と「実際のまちづくり」の違いから自己の活動を見つめる～

1・2月：探究の発信 昨年度行われた「ぎふまちづくりTTP大賞」に提案(岐阜大学：高木朗義教授)

10・11月：プロジェクトの再検討 →「このプロジェクトをどうしていきたい?」→まとめ

8・9月：現状を踏まえて「～ことをしてみたい」という子ども達の願いからプロジェクトの発足一歩

・社会で働く人の価値観を知る(お金を稼ぐこと以外の価値観) ・「変えたくても変えられなかった」の葛藤を学ぶ

現状：自分の住むまち、自分が住んでいないまち
「自分のまちは住みよいまちなのか?」「他のまちはどうなのか?」

6・7月：すみよいまちづくりの現状を知る
・市役所の人がわしたちが考えるまちづくりとどう違うのか?とどう対峙しているのか?聞いてみよう。
・企業の人と聞いてみよう。企業にまちを提案してみよう。 ・まちの人に調査してみよう。

教師のしかけ：出会いをつくる
市役所、飲食店関係、柳ヶ瀬商店街、長良川、Morinos(昨年度)、アニメ東濃(アニメで町おこし)、NEC Safer city (HP：社会と暮らしたDX NEC Safer Cities | NEC)、トヨタのウーブンシティ(未来の都市)、富士通の出版講座(環境問題)、岐阜大学地域科学部、工学部社会基盤 などなど。

6月：子ども達の願い 「すみよいまちづくり」に対してあなたはどうしていきたいか?
・まずは町のことを知っている市役所の人がどのような取り組みをしているか聞いてみたい。
・ユニバーサルデザインがまちにどのようにあるか調べてみたい。 などなど

6年生2組のどう生きる科 探究課題：住んでいる人がしあわせだと感じるまちづくりとは?

5月：願いをもとに自分のまちはどう考える
「自分のまちは住みよいまちなのか?」

4月：どう生きる科テーマとの出会い すみよいまちづくりとは?
・こみがないまち、資源が多いまち、不自由な人のために協力ができるまちなど…。
・住みよいまちづくりの「住みよい」とは?

教師のしかけ(道徳的な側面)
まちに住む人にとっての本物のしあわせとは何かをプロジェクトを提案後に考える。

教師のしかけ(道徳的な側面)
社会ではたらく人々の「価値観」に触れて、その価値観に対する自分の考えを学校で交流する。

ジレンマ
子どもたちが抱くジレンマ
・「自分の思うしあわせ」と「社会の人々のしあわせ」のギャップ

教師のしかけ(道徳的な側面)
理想と現実のギャップを体感する資料を扱う。また、「まちの人々の声」から自分たちの活動を考える。

子どもの意見
・どれほど市役所の人々が「良いまちだ」と言っても実際に住んでいる人がしあわせだと感じなかったら住みよいまちではない。
・すみよいまちと裕福なまちは本当にイコールなのか。
・本当にコンパクトなまちが住みよいとは限らない。もしかするとゴミが増えるかもしれない。だから、そこに住む人のことを考えないといけない

46

実践の例（8年生）

＜分科会＞ 通常学級				
部	学年	テーマ	実践概要	指導者
Ⅰ部	1年	いろいろな人と仲良くなろう ～みんな大好き！なかよし大作戦～	「学校にはなにがあるの？」という問いから始まった学校探検。その答えを見つけたくて、探検に出かけた子供たちは、先生、お兄さん、お姉さんなどと関わる。そして、気付けば「あの人ももっと仲良くなりたい」と願うようになった。子供たちは、自分だけの「なかよし大作戦」を考え、様々な「人」と仲良くなるためにはどうしたらよいのかを探究していく。	大阪教育大学 連合教職実践研究科教授 田村知子 様
	2年	みんなに美味しい野菜を 食べてもらおう ～わくわく野菜大作戦～	「美味しい野菜を育てたい」「自分の育てた野菜を家族に食べてほしい」といった強い願いをもち、野菜を育てている。その中で、「どれくらいの種類の野菜があるのか」「育つ時期は違うのか」「育てるために必要な物は何か」など、多くの疑問が生まれた。その解決のために仲間とともに探究していく。	
	3年	全校のなかまを笑顔にしよう ～笑顔でつながる！！お花大作戦～	子供たちは、全校のなかまを笑顔にしようと、種や苗から花の栽培をしている。しかし、枯れたり発芽しなかったりと、なかなかうまくいかずジレンマを感じることも多い。そんな状況下で、どうすれば花を咲かせ続けることができるのかを仲間とともに考え、自分がどう行動すれば、全校のなかまの笑顔につながるかを探究していく。	
	4年	命について考える ～命を大切にすると～	飼育活動を通して命と共に生きる子供たちから生まれた問い「命とは？」。その問いの答えを求めて、常に命と向き合う医療従事者や食肉衛生検査所の方々や語り合う。実生活と対話から生まれるジレンマと向き合い、命と共に自分はどう生きるか学び続ける。	
Ⅱ部	5年	みんなが幸せな食環境 ～自分にできることは～	コロナ禍での給食用牛乳の大量ロス。1本の牛乳の向こうに見える「命」「人」「資源」の繋がりに、子供の中に「みんなが幸せな食環境とは何か？」という問いが生まれた。答えを求めて酪農家を訪問、現場を見て語り合う。理想と現実の違いから生まれるジレンマと向き合い、食環境を支える一員として自分はどう生きるかを探究する。	上越教育大学大学院 学校教育研究科准教授 河野麻沙美 様
	6年	すみよいまちづくり ～そこに住む人々の幸せとは～	「すみよいまちとはどんなまちなのか？」「そのすみよさを生み出すものとは何か？」その問いの答えを求め、まちを歩いて調査をしている。市役所の人や、まちで働く人、まちに住んでいる人に出会って話をする中で、自分たちが描く理想と現実の違いから生まれるジレンマに葛藤しながらも、まちをつくる市民の一人として自分はどう生きるかを探究していく。	
	7年	〇〇な文化を私たちが守る ～未来に残すべき文化のカタチとは～	「文化とは何か？」という問いから始まり、様々な文化に触れる中で感じるその文化の美しさや尊さ、誇り…。しかし、その文化が今、消えかけたり、大きく変わろうとしたりしている事実と直面する中で「文化を守るためには？」と自分事として考える子供たち。文化に関わる人との出会いや仲間との対話を通して、文化を未来につなげるための創造的な探究が始まる。	
Ⅲ部	8年	幸せに生きる×テクノロジー ～幸せに生きるとは～	テーマから実生活を見つめ、テクノロジーの存在に気付く。工業高校の生徒や町工場の方々との対話を通して、様々なテクノロジーに触れる。実生活と対話から生まれるジレンマと向き合う中で、「幸せとテクノロジー」の視点から探究していく。	郡上市立郡南中学校長
	9年	自分はどう生きるか	「生きる」とはどういうことか。このような問いをもとに、様々な人の生き方に触れたり、相反する考えをもつ他者との対話を積み重ねたりする。その中で、生きることに対する価値観を多面的・多角的に構築しながら、予測困難な時代を自分は「どう生きる」のか、探究し続ける。	三島晃陽 様
特別支援学級				
Ⅰ部	3・4年	きらきらファイブになろう	「きらきらファイブ」の絵本には、主人公5人が力を合わせてゲームに挑み、記録を伸ばしていく大会の様子が描かれている。自分たちが、主人公「きらきらファイブ」になりきって絵本のストーリーを進める中で、自分の役割を最後までやり遂げることや仲間と協力することの大切さを学んでいく。	岐阜大学教育学部教授
Ⅱ部 Ⅲ部	8年	お客さんに喜んでもらうために	職業調べを通して、「お客さんに喜んでもらえるようなカフェを開きたい」と願いをもちた子供たち。社会に出て働く自分の姿を描き、仲間と共にカフェを開く準備をし、実際にお店を開く。その中で、仕事のやりがいを見つけ、働くことの意義について考えていく。	池谷尚剛 様

8年生 テーマ「幸せに生きる×テクノロジー」 AIと人間が共に生きるためには（12月）



テーマ 「しあわせに生きるとは？×テクノロジー」

探究テーマ「テクノロジー」とは、人々のよりよくらしを支えているものである。「テクノロジー」は私たちの社会生活を便利に豊かなものになっている。その一方で、「テクノロジー」は新たな問題や混乱、格差を生み出すきっかけになることもあるものであり、その捉え方は多様である。しかし「テクノロジー」を使うのは人間である。「テクノロジー」をどのように使い、生かすのかという、人としての生き方に迫ることのできるテーマであり、その解決に向けて考え、行動することを通して、資質・能力を育む。

知識・技能：自分の身近な生活が、どのようなテクノロジーに変えられているか、自ら調べ理解し、そのよさを身近な生活に活かす方法を考えることができる。

主体的な問題解決力：テクノロジーとどのように向き合えば、生活をよりよいものにすることができ、幸せになれるのかを多面的・多角的に考えたり、行動したりすることで、乗り越えることができる。

協働的な関係構築力：仲間や実社会に生きる人の考えを共感的に受け入れ、それぞれの願いや考えを調整しながらテクノロジーを活かした幸せの実現に向けた活動に取り組むことができる。

貢献する人間性：テクノロジーを活かした幸せの実現に向けた活動を通して、テクノロジーへの興味を高め、貢献することの喜びを実感したり、自分の生き方につなげて考えたりしようとしている。

9・10月

①テーマに対する最初の考えをもつ

- ・探究テーマと出会う（個人追求・交流）
- ・「私たちの身近にあるしあわせって何？」
- ・東京オリンピックを例に幸せを支えている「テクノロジー」に焦点を当てる。
- ・「オリンピックをテレビで楽しめた裏にはどんなテクノロジーが使われているのか？」
- ・「テクノロジーの向上にはどんなテクノロジーが？」
- ・「ただでなく新型コロナウイルス感染症でどんなテクノロジーがいかされて？」
- ・「テクノロジーにはどんな最新のテクノロジーが？」
- ・「その進歩によって、オリンピックにはどんな変化があったのか？」
- ・探究テーマについて自分の考えや、さらに明らかにしたい問いを出す。

②問いをもち、調査・整理する

私たちの生活はどんな「テクノロジー」の支えられているか

A希望と勇気、克己と強い意志 真理の探究 B思いやり、感謝 C公正、公平、社会正義 社会参画、公共の精神 勤労 家族愛 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 D よりよく生きる喜び

11・12月

③人との出会いを通して、考えを再構築する

探究テーマから個人の探究課題（願い）を導き出す
「私たちの生活を支えるテクノロジーに関わる人々はどのような願いや思いを持っているのか？」
岐阜県立岐阜工業高等学校
各務原航空宇宙博物館
職人

ドローンなど生徒の興味や関心を引き出し「この人に出会いたい」という思いとともに、オンラインや見学、対話する機会をもつ

④人との対話を通して、価値や事柄について対話する

※必要に応じて、学級内や外部の方と対話をもつ
「テクノロジーと人間ってどういった関係？」
「テクノロジーと人間ってどういった関係？」

「テクノロジー」の進展は本当に幸せにつながるのか

3月

⑦探究を振り返る

探究を振り返って、「自分の生き方にどうつながったか？」を確認することを通して、自分にどんな力が付いたか自己評価する。

自分は「テクノロジー」とともにどんな生き方をしたいか。

1・2月

⑤願いをもとに プロジェクトを計画・実行する

「私たちもまわりの人、みんながしあわせな学校生活が送れる環境にするために、今、自分にできることって何だろう？」
実践や実社会の方との対話によるトライ&エラーやジレンマなど、エラーを待ち受け、繰り返し他者と問わる。その中で、自己評価と他者評価を繰り返し活用する。

願いをもとにした行動や立場の違いのそれぞれの思いや願いを受け止めながら、繰り返し「テクノロジー」と人間はどのように関わらなければならないのかを問い続ける。

⑥プロジェクトの歩みを外部の方に発信・再発信

岐阜工業高等学校の高校生とともに、テクノロジーの可能性を協議し、まとめたことを外部に発信する。

「テクノロジー」とどのように関わるとよいのか

冬休み

個人でテーマを設定し、個人探究し、身近な生活との関連を図り、自分の興味や関心を広げる。

A自主、自立、自由と責任と勇気、克己と強い意志 真理の探究 B思いやり、感謝 友情、信頼 相互理解、寛容 C公正、公平、社会正義 社会参画、公共の精神 よりよい学校生活、集団生活の充実 D 生命の尊厳 感動、畏敬の念 よりよく生きる喜び

ジレンマ

ジレンマ

根拠に基づいた答えの出し方を・・・

6年生 富士通さんとの遠隔コラボ授業（10月）から

ドライヤーをする前にタオルでかみ
の毛をかきかすこと60秒当り4.3円減ら
すことができた。

→1秒でも、0.1円安くなるので少しで
も努力したほうがいい。

データで示して
くれると、とて
も分かりやすい
ですね

算数や理科
の力を活用して
提案を発信

根拠に基づいた答えの出し方を・・・

8年生 数学の「統計」の学びを生かして
データ整理・見える化を

8年生：数学

「統計」に関する単元



8年生：どう生きる科

「統計」の学習を生かした探究

問7

インターネット機器を持つ前の
生活と比べてどう変化したか

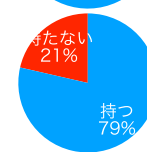
Boys

	睡眠時間	勉強時間	運動時間	家族と過ごす時間
増えた	1	6	7	1
変わらない	6	5	6	8
減った	9	6	3	4

Girls

	睡眠時間	勉強時間	運動時間	家族と過ごす時間
増えた	0	3	3	1
変わらない	11	8	9	13
減った	6	6	5	3

どちらの生活の方がいいか



“どう生きる科”をどうデザインするか

④ 外部人材との連携

学校だけの学びでは、あまりにも狭すぎる

積極的に、外部の力をお借りする

社会で活躍される皆さんとの出会い

社会で貢献される方々と
(企業・医療・文化・行政など)



岐阜市の行政で活躍される皆さんとの出会い

【令和2年度】

- ・ 令和2年7月17日（金） 岐阜市長 柴橋正直 様
6年生「住みよいまちづくりについて」
- ・ 令和2年10月12日（月） 岐阜市にぎわいまち公社 まちづくり推進課 にぎわい創出係係長 窪田 清明 様
6年生「住みよいまちづくりについて」
- ・ 令和2年11月13日（金） 岐阜市都市防災課 長縄 様
8年生「岐阜市の防災について」
- ・ 令和3年2月19日（金） 岐阜市役所文化財保護課 課長 高橋 様
5年生「〇〇ロスについて」

岐阜市役所の方々にも
ご協力いただいています！



【令和3年度】

- ・ 令和3年9月27日（月） 岐阜市保健所生活衛生課 小林佳子 様
4年生「捨て犬を保護したり、殺処分したりする仕事について」
- ・ 令和3年9月30日（木） 岐阜市役所未来創造研究室 長尾洋輔 様
6年2組「住みよいまちづくりのために、岐阜市の現状を聞く」
- ・ 令和3年10月1日（金） 岐阜市保健所食肉衛生検査所 古川智子 様
4年生「家畜に対する考えを深める」
- ・ 令和3年12月17日（金） 岐阜市役所環境部 低炭素・資源循環課 棚橋秀行 様 山田沙織 様
5年生「岐阜市の食品ロスの現状、削減方法など」



専門高校生の皆さんの出会い

高校生の皆さんと



岐阜工業高校
←



岐阜農林高校
←

加納高校 (美術科)
→



自己実現に向かう児童生徒（9年生）

「どう生きる科」の学びを通して、自分の生き方を見つめ
自分の未来を描き、自己実現に向かう姿

